

平成24年度 全国学力・学習状況調査について

滋賀県教育委員会事務局学校教育課

1. 実施概要

- (1) 実施日 平成24年4月17日(火)
- (2) 対象学年 小学校第6学年、中学校第3学年
- (3) 実施教科

- ①教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)
 - ・主として「知識」に関する問題(A問題)
 - ・主として「活用」に関する問題(B問題)

※理科については、「主に知識に関する調査」と「主に活用に関する調査」を一体的に出題

- ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査

(4) 実施学校数

	全学校数	調査対象児童生徒の在籍する学校数	抽出対象学校数	調査を実施した学校数
市町立小学校	228	227	95	95
特別支援学校(小学部)	12	4	2	2
市町立中学校	97	97	69	69
県立中学校	3	3	2	2
特別支援学校(中学部)	12	5	3	3
公立学校計	352	336	171	171

2. 教科に関する調査の実施結果(公立)

○平均正答率 [95%信頼区間]

	教科等	国語		算数・数学		理科
		A「知識」	B「活用」	A「知識」	B「活用」	
小学校	滋賀県	80.3±0.9%	53.7±1.3%	71.2±1.1%	56.3±1.3%	58.5±1.1%
	全国	81.6±0.2%	55.6±0.2%	73.3±0.2%	58.9±0.2%	60.9±0.2%
中学校	滋賀県	74.7±0.6%	62.0±0.6%	63.0±0.8%	48.4±1.0%	51.1±0.7%
	全国	75.1±0.1%	63.3±0.1%	62.1±0.2%	49.3±0.2%	51.0±0.1%

※平均正答率の95%信頼区間とは、95%の確率で、全員を対象とした調査(悉皆調査)の場合の平均正答率が含まれる範囲を表す。

○滋賀県の状況は、小学校・中学校ともに全国の平均正答率の前後5%の範囲にある。

○平成21年度に小学校調査を受けた児童が、今年度中学校調査を受けている。
国語A・B、数学A・Bともに平成21年度調査結果からの伸びがみられる。

3 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査の結果から

○「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問について肯定的に答えた児童生徒の割合（小 78.9% 中 49.4%）は、これまでと同様に全国より高く、児童生徒と地域社会との良好なつながりがあることがうかがえる。

○「友達との約束を守っていますか」という質問について肯定的に答えた児童生徒の割合が高い。（小 97.4% 中 96.3%）

○「普段の授業では、話し合う活動をよく行っていると思いますか」という質問について肯定的に答えた児童生徒の割合が低い。（小73.4% 中55.3%）

4 今後の取組

○調査結果から見られた課題改善のために、下記の取組を行う。

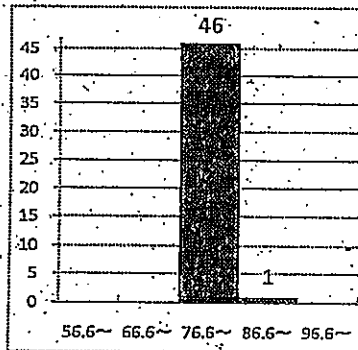
- ・調査問題や質問紙調査の結果の分析
- ・学力向上に係る事業に取り組んでいる研究指定地域への支援と研究成果の普及
- ・市町教育委員会に対する調査結果の説明や、結果の活用、学力向上の取組への助言
- ・学校訪問を通じて、授業改善・学校改善、学力向上の取組への指導助言

3. 都道府県の状況（公立）

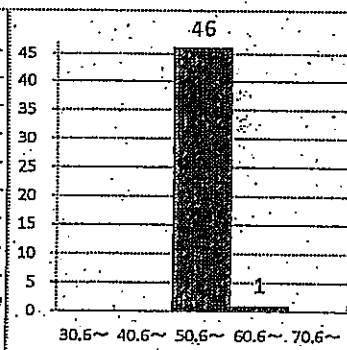
○ 都道府県の状況（公立）については、平均正答率を見ると、22年度同様、ほとんどの都道府県が平均正答率の±5%の範囲内にあり、ばらつきが小さい。

【小学校調査】 正答率分布グラフ（横軸：平均正答率（%），縦軸：都道府県数）

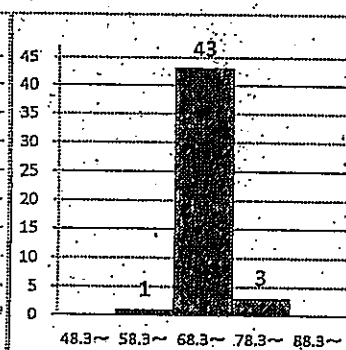
【国語A】



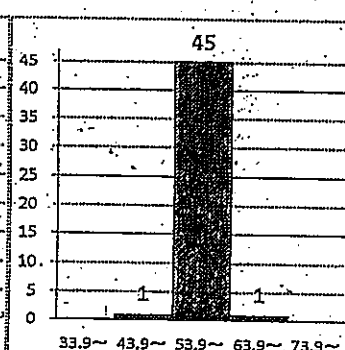
【国語B】



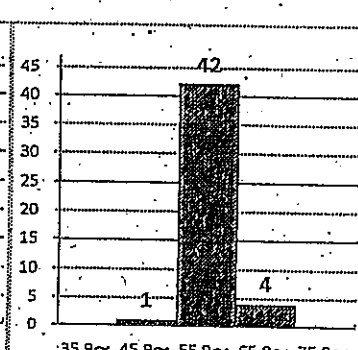
【算数A】



【算数B】



【理科】

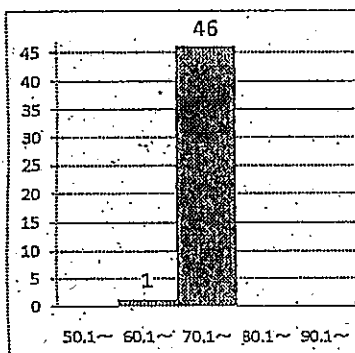


	全国(公立)の 平均正答率(%) 【95%信頼区間】	47都道府県(公立)中、 最高平均正答率(%) 【95%信頼区間】 【全国との差】	47都道府県(公立)中、 最低平均正答率(%) 【95%信頼区間】 【全国との差】
国語A	81.4~81.7 (81.6±0.2)	86.4~87.3 【+4.7~+5.9】	76.3~77.8 【-5.4~-3.6】
国語B	55.4~55.8 (55.6±0.2)	62.1~63.8 【+6.3~+8.4】	50.8~52.6 【-5.0~-2.8】

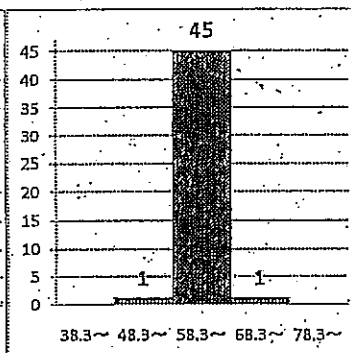
	全国(公立)の 平均正答率(%) 【95%信頼区間】	47都道府県(公立)中、 最高平均正答率(%) 【95%信頼区間】 【全国との差】	47都道府県(公立)中、 最低平均正答率(%) 【95%信頼区間】 【全国との差】
算数A	73.1~73.5 (73.3±0.2)	78.8~80.2 【+5.3~+7.1】	65.5~67.6 【-8.0~-5.5】
算数B	58.7~59.1 (58.9±0.2)	63.2~64.9 【+4.1~+6.2】	52.0~53.9 【-7.1~-4.8】
理科	60.8~61.1 (60.9±0.2)	67.7~69.1 【+6.6~+8.3】	54.6~56.4 【-6.5~-4.4】

【中学校調査】 正答率分布グラフ (横軸：平均正答率 (%) 縦軸：都道府県数)

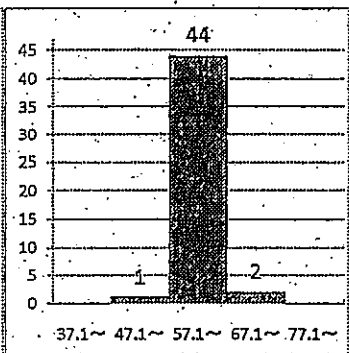
【国語A】



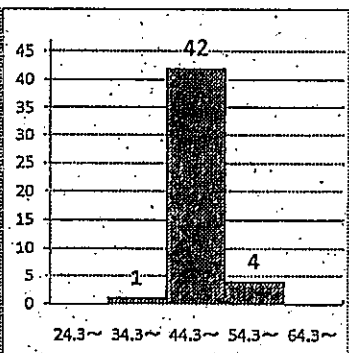
【国語B】



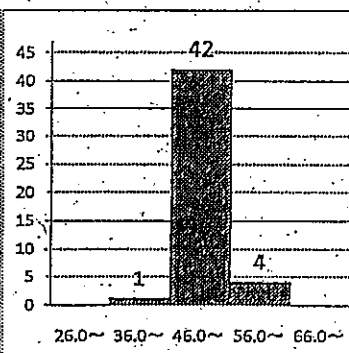
【数学A】



【数学B】



【理科】



	全国(公立)の 平均正答率(%) [95%信頼区間]	47都道府県(公立)中, 最高平均正答率(%) [95%信頼区間] 【全国との差】	47都道府県(公立)中, 最低平均正答率(%) [95%信頼区間] 【全国との差】
国語A	75.0~75.2 (75.1±0.1)	79.2~80.2 【+4.0~+5.2】	66.9~68.3 【-8.3~-6.7】
国語B	63.2~63.4 (63.3±0.1)	69.7~70.8 【+6.3~+7.6】	56.2~57.7 【-7.2~-5.5】

	全国(公立)の 平均正答率(%) [95%信頼区間]	47都道府県(公立)中, 最高平均正答率(%) [95%信頼区間] 【全国との差】	47都道府県(公立)中, 最低平均正答率(%) [95%信頼区間] 【全国との差】
数学A	62.0~62.3 (62.1±0.2)	67.2~69.0 【+4.9~+7.0】	49.8~51.8 【-12.5~-10.2】
数学B	49.2~49.5 (49.3±0.2)	55.6~57.7 【+6.1~+8.5】	37.5~39.4 【-12.0~-9.8】
理科	50.9~51.1 (51.0±0.1)	57.0~58.6 【+5.9~+7.7】	40.7~42.2 【-10.4~-8.7】

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査の年度ごとの状況

(単位 %)

○平成21年度

小学校				
	国語A	国語B	算数A	算数B
滋賀県	68.3	48.0	76.3	53.4
全国	69.9	50.5	78.7	54.8
状況	-1.6	-2.5	-1.9	-1.4

中学校			
国語A	国語B	数学A	数学B
76.9	74.0	63.6	57.2
77.0	74.5	62.7	56.9
-0.2	-0.5	0.9	0.3

○平成22年度

小学校				
	国語A	国語B	算数A	算数B
滋賀県	82.4±0.9	77.6±1.0	92.6±1.0	71.5±1.0
全国	83.3±0.2	77.8±0.2	74.2±0.2	49.3±0.2
状況	-0.9	-0.2	-1.4	-1.6

中学校			
国語A	国語B	数学A	数学B
74.9±0.7	64.3±1.0	66.0±1.1	44.1±1.4
75.1±0.1	65.3±0.2	64.6±0.2	43.3±0.2
-0.2	-1.0	1.4	0.8

○平成24年度

小学校					
	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
滋賀県	80.3±0.9	53.7±1.3	71.2±1.1	56.3±1.3	58.3±1.1
全国	81.6±0.2	55.6±0.2	73.3±0.2	58.9±0.2	60.9±0.2
状況	-1.3	-1.9	-2.1	-2.6	-2.4

中学校				
国語A	国語B	数学A	数学B	理科
74.9±0.5	62.0±0.6	63.8±0.8	48.4±1.0	51.1±0.7
75.1±0.1	63.3±0.1	62.1±0.2	49.8±0.2	51.0±0.1
-0.4	-1.3	0.9	-0.9	0.1

※平成22、24年度調査は抽出調査となったことから、平均正答率を「正答率±95%信頼区間」で表示している。

※「95%信頼区間」とは、95%の確率で全員を対象とした調査(悉皆調査)と同様の平均正答率が含まれる範囲をいい、例えば「50.0±1.3%」の場合、48.7から51.3が「95%信頼区間」となり、平均正答率が95%の確率で48.7から51.3までの間に含まれることを示す。

※平成24年度の「状況」については、滋賀県と全国の平均正答率をもとに算出した。

※本県の平均正答率が全国の平均正答率を下回っている場合に、セルに色を付けている。

【小学校国語】

◇ 国語A（知識）の平均正答率は80.3±0.9%であり、例えば、次のような課題等が見られた。

○百科事典を読み、目的に応じて中心となる内容を捉えること

全国平均より+0.2% [A 5イ 92.4%]

●目的や意図に応じ、必要となる事柄を整理して簡潔に書くこと

全国平均より-4.5% [A 7 38.7%]

●ねらいを明確にして質問をすること

全国平均より-0.4% [A 2 64.8%]

◇ 国語B（活用）の平均正答率は53.7±1.3%であり、例えば、次のような課題等が見られた。

○司会として収集した情報を捉え、まとまりごとに整理すること

全国平均より+0.2% [B 2一 84.5%]

●手紙の構成を理解し、後付けを書くこと

全国平均より-1.3% [B 1三 22.2%]

●複数の記事を結び付けながら読み、事実を基にして自分の考えをもつこと

全国平均より-3.5% [B 3四 34.2%]

○印：正答率が80%以上を上回っていて指導内容が定着しているものや、正答率が80%を上回っていないが、特徴的であるものに付けている。

●印：指導内容が十分定着しているとはいえないものに付けている。

7

第三小学校の新聞委員の内山さんは、学校の合唱部が活やくしていることを学校新聞の記事に書くことにしました。「学校新聞の記事の一部」の内容の一部の①から④までを一文にまとめて書きます。書き出しの言葉に続く内容を二十字以上、三十字以内で書きましよう。

(書き出しの言葉は、字数にはふくみません。)

【取材した内容の一部】

- ① 合唱コンクールの県大会が、七月一日に開かれた。
 - ② そのコンクールに、第三小の合唱部が出場した。
 - ③ 第三小の合唱部は、そのコンクールで金賞に選ばれた。
 - ④ 第三小の合唱部は、来月開かれる全国大会に出場することになった。
- 〽 (メモが続く) 〽

【学校新聞の記事の一部】

第三小☆学校新聞 平成24年7月号

第三小の歌声 全国へ

県大会で金賞

七月一日、合唱コンクールの県大会に出場した本校合唱部が、

〽 (記事が続く) 〽

【小学校算数】

◇ 算数A（知識）の平均正答率は71.2±1.1%であり、例えば、次のような課題等が見られた。

○整数、分数の四則計算については、相当数の児童ができています。

[A 1 (1) 95.7%, (2) 94.2%, (4) 91.1%, (6) 85.4%, (7) 80.8%]
全国平均より ±0%, -0.1%, +0.3%, -0.3%, -1.6%

○測定値の平均を求めることについては、相当数の児童ができています。

全国平均より-0.8% [A 4 86.1%]

●場面と図とを関連付けて、示された割合を基に基準量と比較量の関係を理解すること
全国平均より-1.0% [A 3 (1) 33.0%]

●1に当たる大きさを求めるために除法が用いられることを理解すること
全国平均より-1.2% [A 3 (2) 39.9%]

◇ 算数B（活用）の平均正答率は56.3±1.3%であり、例えば、次のような課題が見られた。

●必要な情報を用いて、指定された高さにすることができるかどうかを判断し、その理由を記述すること
全国平均より-2.0% [B 2 (2) 24.8%]

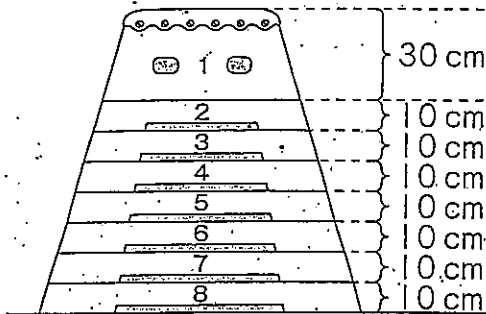
●表から適切な数値を取り出して割合の大小を判断し、その理由を記述すること
全国平均より-3.9% [B 5 (3) 19.4%]

ゆかりさんの学校には、小型と中型の2種類のとび箱があります。

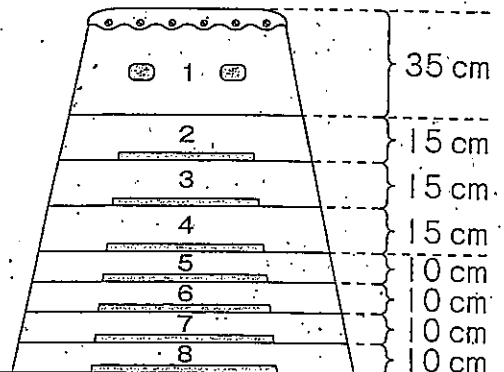
小型のとび箱の1段ごとの高さは、1段目が30 cm、2段目から8段目までがそれぞれ10 cmです。

中型のとび箱の1段ごとの高さは、1段目が35 cm、2段目から4段目までがそれぞれ15 cm、5段目から8段目までがそれぞれ10 cmです。

小型のとび箱 (8段)



中型のとび箱 (8段)



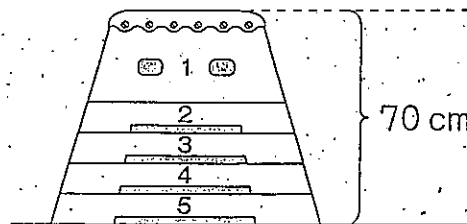
(1) 中型のとび箱を8段にしたときの高さを求める式はどれですか。次の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 $35 + 15 \times 8$
- 2 $35 + 15 \times 7$
- 3 $35 + 15 \times 4 + 10 \times 3$
- 4 $35 + 15 \times 3 + 10 \times 4$

(2) ゆかりさんたちは先生から、小型と中型のとび箱を、同じ高さにして準備するようにたのまれました。

まず、みんながよく練習している小型のとび箱を5段にしました。そのときの高さは70 cm でした。

小型のとび箱 (5段)



次に、中型のとび箱を小型のとび箱と同じ70 cmの高さにしようと思います。中型のとび箱を70 cmの高さにすることはできますか。

下の **1** と **2** から正しいほうを選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1** 中型のとび箱を70 cmの高さにすることはできる。
- 2** 中型のとび箱を70 cmの高さにすることはできない。

【小学校理科】

◇ 理科の平均正答率は58.5±1.1%であり、例えば、次のような課題等が見られた。

主として「知識」に関する問題では、

○方位磁針の名称を理解し、書くことについては正答率が高い。

全国平均より-0.4% [4 (2) 89.4%]

●方位磁針の適切な操作方法を身に付け、太陽の方位をとらえること

全国平均より-0.9% [4 (1) 26.4%]

●光電池の特性や乾電池のつなぎ方と、それらの働きとの関係を理解すること

全国平均より-3.0% [3 (1) ア 73.5%]

全国平均より-5.7% [3 (1) イ 56.0%]

主として「活用」に関する問題では、

○日陰の様子と雲の様子を関係付けて、木の陰がなかった時間の空の様子を分析すること

全国平均より+0.6% [4 (4) 65.2%]

●天気の様子と気温の変化についてデータを基に分析して、気温の変化を表したグラフを選択し、その理由を記述すること

全国平均より-1.1% [4 (5) 15.8%]

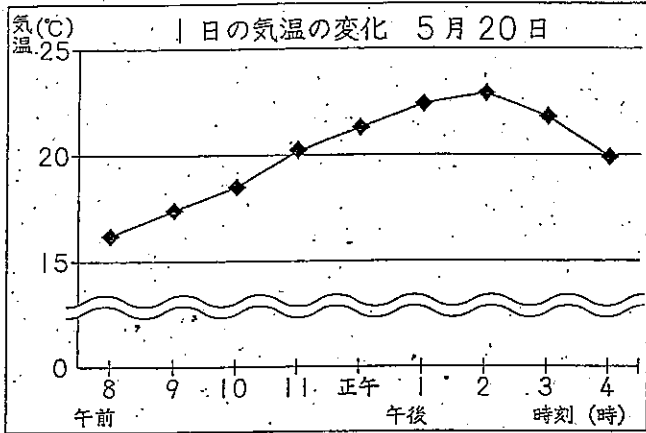
●電磁石の強さが変化する要因について、変える条件と変えない条件を整理して実験を計画すること

全国平均より-4.3% [3 (4) 46.3%]

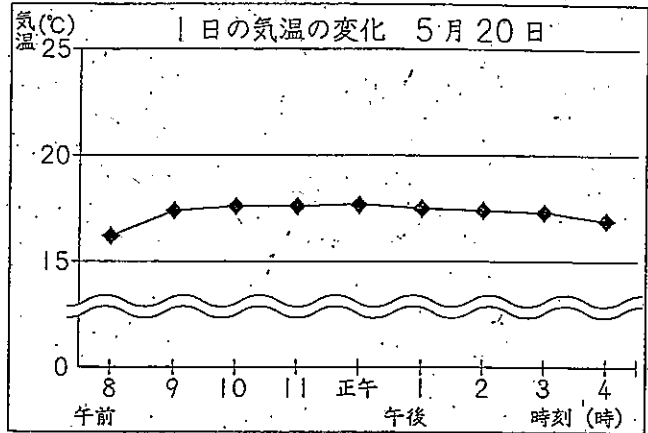
(5) 三郎さんは、同じ日に気温をはかりました。

この日のかげのようすから1日の天気を考えると、気温の変化を表したグラフはどれですか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを書きましょう。

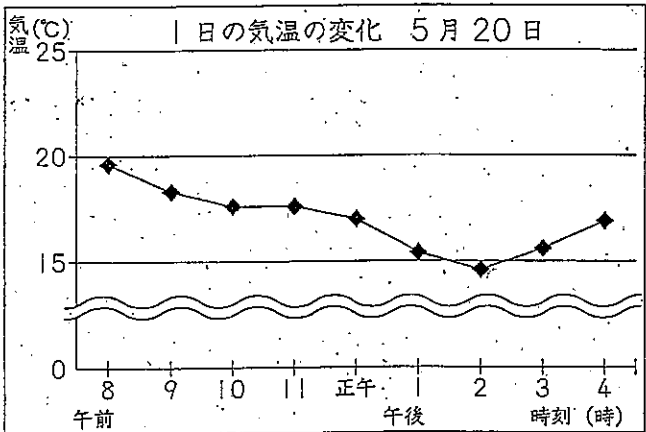
1



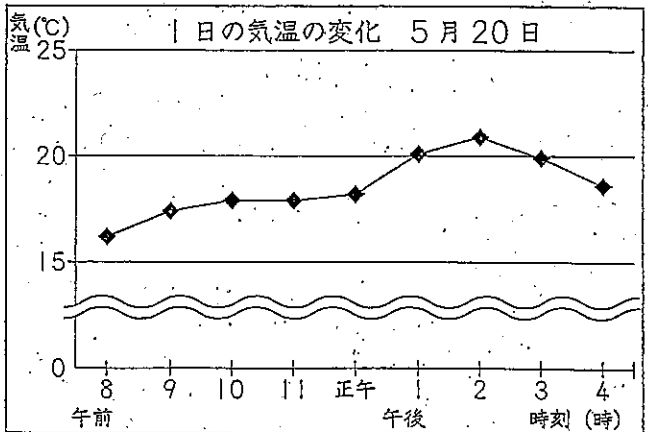
2



3



4



【中学校国語】

◇ 国語A（知識）の平均正答率は74.7±0.6%であり、例えば、次のような課題等が見られた。

○手紙の形式を理解して書くこと 全国平均より+0.2% [A 2一 89.4%]

●比喩という言葉と結び付けて、表現の仕方を理解すること
全国平均より-3.3% [A 3二 37.1%]

●目的に応じて必要な情報を読み取ること
全国平均より-2.3% [A 6二 38.0%]

◇ 国語B（活用）の平均正答率は62.0±0.6%であり、例えば、次のような課題等が見られた。

○文脈の中における語句の意味を捉えること
全国平均より-0.2% [B 2一 84.1%]

●相手の発言を注意して聞き、自分の考えを書くこと
全国平均より-0.9% [B 1三 18.8%]

●物語の場面の展開を捉えること 全国平均より-2.2% [B 3二 32.0%]

1 次は、作家の大岡玲さんと女優の榎ふみさんの対談の一部です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

美しい日本語とは

大岡 玲さん × 榎 ふみさん



大岡 ここ何年も、「日本語が美しくない」、あるいは「日本人の言葉が乱れている」といった議論が多いような印象があります。でも、「美しい日本語」というその「日本語」っていったいいつの「日本語」なんだろうって、いつも疑問に思っています。

榎 私は今、テレビ番組で「万葉集」を読んでいますが、五七調の大和言葉ってとても美しいですね。韻を踏む

欧米の言語に負けないリズム感があって。でも、言葉は時代とともに変わっていくもの。昔の言葉がいいとは、一概にはいえませんね。

大岡 今、私たちが使っている共通語としての日本語は、明治以降、日本人のすべてが理解できる国語の創出が必要になって、国家の関与もありながら形作られてきたものですよ。その結果、今では日本全国で話を通じる。金田一春彦さんがおっしゃっているように、昔の言葉より、「通じる」という点では乱れていないかもしれない。

榎 なるほど。日本語はまだ発展途上、完成形ではないんですね。

大岡 それに「言葉の乱れ」を嘆く風潮は、昔もありました。清少納言は「枕草子」のなかで、吉田兼好は「徒然草」のなかで、「言葉の乱れ」を嘆いています。

榎 あらら、今と全く同じですね。私は、何年前にはやったハーフクエスチョンの話した方、「〇〇みたいな？」「〇〇って感じ？」と、語尾をやや上げるのが気になるんですけど、大岡さんが最近、聞き苦しく感じられる言葉遣いはありますか。

大岡 あるといえはありますが、大学で学生を指導していたりするせいで、半ば無意識的に「気にしない」モードで防御しているかもしれません。例えば、「おいしい」という表現に「ヤバイ」を使う子がいると、その場合は私も口移しで使ったりします。もちろん学生相手以外に使うことはありませんが。

榎 「ら抜き言葉」については？

大岡 時々おられますが、基本は使いません。

榎 実は、テレビに出始めのころ、番組で「食べれなかった」と連発してしまっ

たよとがあるんです。すぐさま、学校の大先輩からおしかりのお手紙をいただきました。「実に情けない。『生きたるる』を『生きたる』などと言ったら、あなたは芸能界では『生きたるる』って。それから『ら抜き言葉』が気になって、気になって。

大岡 恐ろしい(笑)。でも、いい先輩ですね。

榎 はい、感謝しています。しかられていなかったら、一生気付かずに使ったでしょうから。そうそう、「しかる」といえば、よく「先生に怒られた」と言うけれど、「怒る」のは感情の爆発で、正しくは「しかられた」。そう金田一春彦さんに教わりました。「食べ逃げてゴメンナサイ」は、本来ならば「いただき立ちですみません」。そんな麗しい言葉があると教えてくださったのも金田一先生でした。

大岡 残していきたいと思う美しい言葉は、個々人が積極的に使うべきです。ただし、同化圧力もある。聞き慣れない言

葉を使うと、「それ、何？」って気まずい雰囲気になる。予備校に通っていたころ「艱難辛苦」という言い回しを口にしたら、「それ英語？ Can you think？」と聞き返されました。以降、なんとなく難しい言葉は控えるようになっていきます。榎 だがらみんな、同じような貧しい言葉で会話しているのね。電車の中で若い人の会話に耳を傾けていると、聞こえてくるのは、「ヤバイ」「マジ」「ウケる」の3つだけ(笑)。

大岡 言葉の乱れよりも、使う言葉の数が少なくなっているのが大きな問題だという気がします。感情を細分化して伝えることが、できなくなっているのではありません。学生を見ると、言葉を使うことを怖がっているように見えます。

榎 どうしてかしら？

大岡 様子をうかがいながら、みんなと同じ言葉を使うことが安全策だと思おうでしょう。その結果、1つの言葉にいろんな意味を込めるようになった。だから「ヤバイ」「マジ」「ウケる」ばかりが使

われるようになったんです。言葉のあいまい化現象といえますね。

榎 言葉って、自分の感情を細かく分析したり定義したりする道具でもあるのですね。今どんな気持ちか、当てはまる言葉を探していかないと、自分の心の状態も分からなくなってしまうかもしれない。

大岡 現代は、日本語が美しい・美しくないという問題以前に、言葉そのものを使うことができなくなった時代なのかもしれない。他人と言葉によってかわっていくという作業をしなくても、なんとなくあいまいで済んでしまう社会状況ともいえる。

榎 若い人に気付いてもらわなくっちゃね、もつとうまく使えるよう言葉を鍛えなきゃダメだって。

(美しい日本語とは)による。

(注1) 金田一春彦「言語学者」

(注2) ハーフクエスチョン「文中のある語の語尾を上げ、相手に尋ねるように問を取る言い方」

(注3) 同化圧力「ここでは、みんなと同じ言葉を使うことを強制するような力」
(注4) 艱難辛苦「困難にあっって悩み苦しむこと」

【中学校数学】

◇ 数学A（知識）の平均正答率は63.0±0.8%であり、例えば、次のような課題等が見られた。

○簡単な連立二元一次方程式を解くこと

全国平均より-0.4% [A 3 (2) 80.1%]

○対称移動した図形をかくこと

全国平均より+2.2% [A 4 (2) 83.5%]

●同位角が等しければ2直線は平行であることを理解すること

全国平均より-0.1% [A 6 (1) 43.5%]

●具体的な事象における2つの数量の関係には、一次関数として捉えられるものがあることを理解すること

全国平均より+1.7% [A 12 39.6%]

◇ 数学B（活用）の平均正答率は48.4±1.0%であり、例えば、次のような課題が見られた。

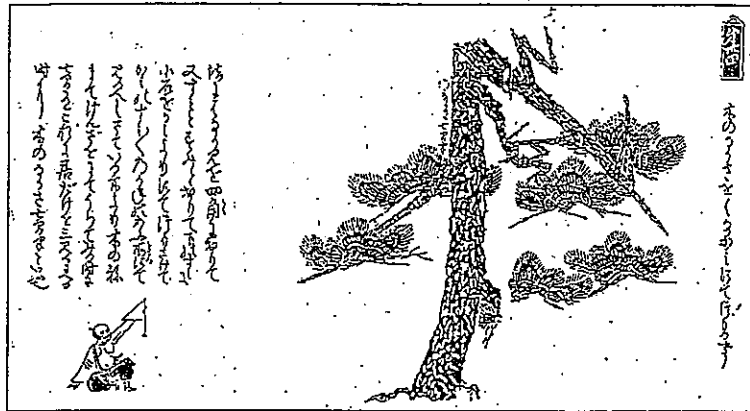
●数学的な結果を事象に即して解釈することを通して、成り立つ事柄を判断しその理由を数学的な表現を用いて説明すること

全国平均より-0.6% [B 1 (2) 9.3%]

●問題解決の方法を数学的に説明すること

全国平均より-0.4% [B 5 (3) 22.1%]

- 5 江戸時代の数学書「塵劫記」には、日常生活で役立つ様々な計算が紹介されています。下の図は、木の高さの求め方を紹介した部分です。



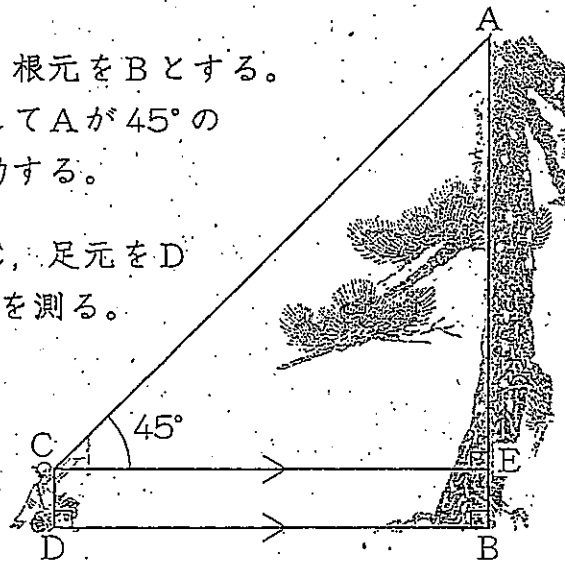
寛永4年(1627年)刊行の塵劫記より

翔太さんは、この内容に興味をもち、木の高さの求め方を、次のようにまとめました。

木の高さの求め方

手順

- ① 木の一番高い位置をA、根元をBとする。
地面と平行な直線に対してAが 45° の方向に見える位置に移動する。
- ② そのときの目の位置をC、足元をDとし、CD、DBの長さを測る。
- ③ CDの長さどDBの長さをたすと、高さABが求まる。



ポイント

- ◎点Cを通りDBと平行な直線とABの交点をEとする。
ABの長さは直接測れないので、ABをAEとEBに分け、それぞれの長さを他の長さに置き換えて測っている。
- ◎木と人は地面に対して垂直に立っていると考えると、 $AB \perp DB$ 、 $CD \perp DB$ 、 $\angle AEC = 90^\circ$ となる。

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(1) 目の高さCDが1.2 m, DBの長さが8.3 mであるとき, 前ページの木の高さの求め方にしたがって, 木の高さABを求めなさい。

(2) 木の高さの求め方の手順②でCD, DBの長さを測っているのは, EBをCDに, CEをDBに, それぞれの長さを置き換えているからです。そのようにしてよいのは, 四角形CDBEが長方形だからです。ここで用いられている長方形の性質について, 下のアからエまでの中から正しいものを1つ選びなさい。

ア 長方形の4つの角はすべて等しい。

イ 長方形の2組の向かい合う辺はそれぞれ平行である。

ウ 長方形の2組の向かい合う辺の長さはそれぞれ等しい。

エ 長方形の対角線の長さは等しい。

(3) 木の高さの求め方では, CEの長さを直接測る代わりに, 次のような方法を用いて, CEの長さを求められるようにしています。

長方形の性質を用いて, CEの長さをDBの長さに置き換える。

AEについてもその長さを直接測る代わりに, 手順①で $\triangle ACE$ の $\angle ACE$ を 45° にすることによって, AEの長さを求められるようにしています。その方法を, 上の のように説明しなさい。

【中学校理科】

◇ 理科の平均正答率は $51.1 \pm 0.7\%$ で、例えば、次のような課題が見られた。

主として「知識」に関する問題では、

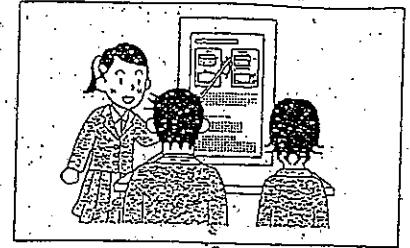
- 石灰岩（石灰石）の見分け方に関する技能を身に付けていること
全国平均より $+2.8\%$ [3 (6) 76.2%]
- 電流計についての適切な技能を身に付け、回路に流れる電流の大きさを読みとること
全国平均より -0.9% [2 (1) 43.4%]
- 水溶液の濃度を溶質と溶媒の質量を基にとらえ、特定の質量パーセント濃度の水溶液をつくる技能を身に付けていること
全国平均より -2.0% [4 (1) 47.8%]

主として「活用」に関する問題では、

- 花のつくりの共通点や規則性に関する知識を活用して、アブラナの花のつくりを表している模式図を指摘すること
全国平均より $+1.2\%$ [1 (4) 67.2%]
- 豆電球と発光ダイオードを用いて電流回路をつくる実験の方法を検証し改善して、根拠を明らかにして正しい実験方法を説明すること
全国平均より -0.8% [2 (2) 6.8%]
- カエルを飼育する場面において、子と親の体のつくりと働きや生活場所に関する知識を活用して、飼育の環境を整えた理由を説明すること
全国平均より -0.2% [1 (2) 37.2%]

1 果歩さんはメダカとアマガエルについて、真菜さんはチューリップについて、それぞれ自由研究に取り組み、発表用ポスターを作成しました。

次の(1)から(6)の各問いに答えなさい。



ポスターを使った発表

ポスター1 次は、果歩さんのポスターの一部です。

メダカとアマガエルの子（おたまじゃくし）を育てよう

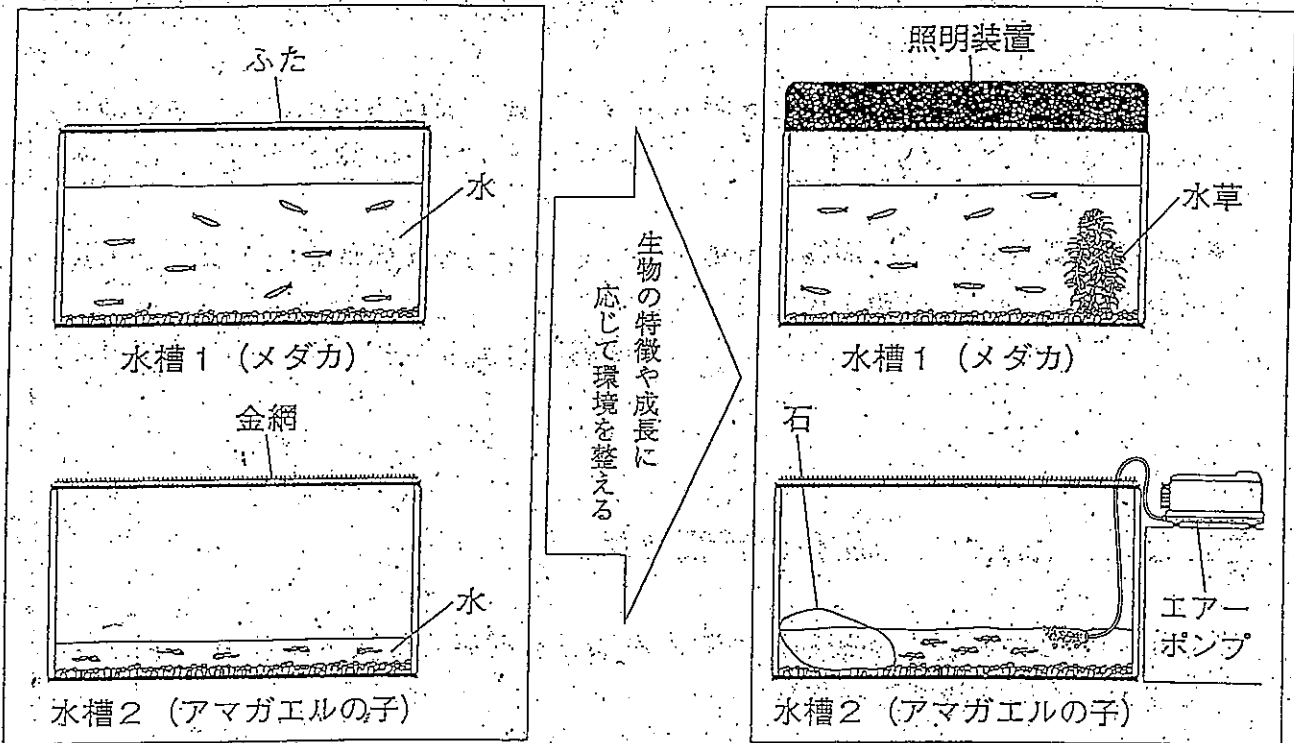


図1

図2

家の近くで、メダカとアマガエルの子を見つけた。まず、図1のように2つの水槽にそれぞれ水を入れ、室内で継続して飼育することにした。

次に環境を整えるため、図2のように、a水槽1には水草を入れ、照明装置で光を当てた。また、アマガエルの子にあしがはえてきたので、親（成体）になる日も近いと考え、b水槽2には石を入れ、陸地になる部分をつくった。

(1) 下線部aのようにして、水中に増やそうとした物質の名称を書きなさい。また、このときの水草の行っているはたらきを何といいますか。その名称を書きなさい。

(2) 下線部bのように、陸地になる部分をつくった理由を書きなさい。ただし、アマガエルの子と親のそれぞれについて、呼吸のしかたと生活場所に関係させて書きなさい。

児童生徒質問紙調査、学校質問紙調査からみる本県の傾向 (概 要)

1 児童生徒質問紙調査からみる本県の子どもの傾向 (全国との比較等)

- 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問について、肯定的に答えた児童生徒の割合は、これまでと同様に全国より高く、子どもたちと地域が継続的に深いつながりがあることがうかがえる。
(小：78.9% +15.7%、中：49.4% +11.7%)
- 「近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか」という質問について、肯定的に答えた児童生徒の割合が高い。
(小：91.2% +0.1%、中：88.2% +0.9%)
- 「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか」という質問について、肯定的に答えた児童生徒の割合が高く、子どもたちが地域と深いつながりがあることがうかがえる。
(小：85.9% +0.2%、中：70.4% +0.2%)
- 早寝早起きなど、規則正しい生活を送っている児童の割合が高い。
(小学校の午後10時より前に寝ている児童 51.8% +5.8%)
- 「友達との約束を守っていますか」という質問について、肯定的に答えた児童生徒の割合が高い。
(小：97.4% +0.3%、中：96.3% -0.5%)
- 「普段の授業では、話し合う活動をよく行っていると思いますか」という質問について、肯定的に答えた児童生徒の割合が低い。
(小：73.4% -3.5%、中：55.3% -5.6%)
- 読書をする児童生徒や学校図書館や地域の図書館に行く児童生徒の割合が低い。
(読書を全くしていない 小：24.3% +1.8%、中：42.3% +5.5%)
(図書館に全く行かない 小：29.1% -2.3%、中：59.0% +1.1%)

2 学校質問紙調査から見る本県の学校の傾向 (全国との比較等)

- 地域の人材を外部講師として招聘した授業を行っている学校が多い。
(小：93.0% +10.9%、中：65.0% +4.7%)
- 博物館や科学館、図書館を利用した授業を行っている学校の割合が高い。
(小：48.7% +8.0%、中：18.8% +2.8%)
- 教員が特別支援教育を理解し、児童生徒の特性に応じて授業を工夫している学校の割合が高い。
(小：92.0% +4.3%、中：86.8% +3.9%)
- 学校の教育活動の情報について、ホームページを更新し、情報提供を行っている学校の割合が高い。
(小：67.8% +6.4%、中：65.0% +6.7%)
- 学校図書館を活用した授業を計画的に行っている学校が少ない。
(小：18.0% -27.6%、中：8.2% -2.3%)
- 中学校では、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりする宿題をよく出している学校が少ない。
(中：47.4% -12.5%)

学力向上に係る事業

本県の児童生徒の学力に係る課題を踏まえ、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に取り組む態度を養うため、教員の指導力が向上することをねらいとし、次の事業を進めている。

①新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上等の方策に関する調査研究

【研究指定地域】

甲賀市、湖南市

全国学力・学習状況調査の結果を活用して、国語、算数・数学を中心に、児童生徒の学習意欲を高める授業などについて研究している。

②学校図書館の有効な活用方法に関する調査研究

【研究指定地域】

草津市、湖南市

国語科を中心に、学校図書館を活用した授業について工夫改善している。

③教育課程研究指定校事業

【研究指定地域】

長浜市

算数科において、児童が自分の考えを表現し、考えを深めることができる授業について研究している。

④言語力アップ推進事業

【研究指定地域】

大津市、彦根市、栗東市、甲賀市、野洲市、東近江市

国語科だけでなく、その他の教科について、「自分の思いや考えを書く」「理由や根拠をつけて考えを述べる」など児童生徒の言語の力を付ける授業について研究している。